

# Twitter上で共感を生み出すツイートの性質に関する考察

## The template for the proceeding of ISSJ

木村 咲<sup>†</sup>

Saki Kimura<sup>†</sup>, and Jiro System<sup>‡</sup>

<sup>†</sup> 青山学院大学 社会情報情報学部 <sup>‡</sup>

<sup>†</sup>Faculty of Information and Communication, System Univ.

<sup>‡</sup>Graduate School of Information and Communication, System Univ.

### 要旨

本研究では、先行研究で実証されていた「Twitter上で共感を生み出すツイートの性質」の再現性を確認するための追試を行った。追試では先行研究とは異なるツイートデータを対象とし、新たに属性として「画像の有無」と「感情極性値」を追加した。芸能人4名のデータを収集して分析した結果、全ての属性においてTwitterで共感を生み出す性質は見られなかった。これは先行研究と(A)ツイートの時期、(B)ラベル付けした被験者が異なるためだと考えられる。

### 1. はじめに

この文書は、 $\text{\LaTeX}$ 2 $\epsilon$ 用の簡単な利用例になっています。この書式にしたがって発表予稿論文の原稿を御作成ください。また、この文書のページ設定や書式は変更しないでください。

投稿者からの要望によって、スタイルファイルは、適宜、改善・改良されることがあります。随時、大会WWWページをご確認ください。

発表者は、大会WWWページの指示に基づいて、期日までに、組版したPDF原稿と $\text{\LaTeX}$ 原稿(本文テキストファイルと図版ファイル、および必要な追加スタイルファイルがあるならそれをzip形式でアーカイブしたファイル)の両方を提出してください(PDF原稿はWWWページへアップロードしてください。 $\text{\LaTeX}$ 原稿の提出方法はWWWページの指示に従ってください)。プログラム委員会(大会事務局)にて編集した上で電子ジャーナル形式の予稿集として本学会Webサイトに掲載いたします(必要に応じて、提出された $\text{\LaTeX}$ 原稿から組版しなおすこともあります)。また、投稿されても、研究発表大会で発表されなかった論文は最終的に予稿集から削除されますので、御承知おきくださいますようお願いいたします。

### 2. スタイルファイルについて

このスタイルでは、用紙サイズ(A4縦置き)、余白(上下左右の余白すべて20mm)が適切に設定されています。

タイトル、著者、所属は、レイアウト枠内に記載してください(ただし、英文の著者と所属の記載は省略可能です)。本文は、1段組の設定がなされています。

なお、各ページのヘッダとフッタ、ならびにページ番号は、予稿集編集時にプログラム委員会(大会事務局)にて設定致しますので、変更しないでください。

### 3. 原稿の作成

$\text{\LaTeX}$ 2 $\epsilon$ を用いる場合、dvipdfmx等によってPDF原稿が作成できます。角藤版W32 $\text{\TeX}$ <sup>1</sup>で組版が可能となりますよう御協力をお願いいたします。Windows OS上でしたら阿部紀行さんの $\text{\TeX}$ インストーラ3<sup>2</sup>で $\text{\LaTeX}$ 2 $\epsilon$ 環境をインストールされることをお奨めします(動作確認もその環境で行っています)。

なお、PDF作成時にセキュリティロックをかけないようお願い致します(標準の設定ではロックをかけないように設定されています)。

### 4. 原稿の提出

組版したPDF原稿と $\text{\LaTeX}$ 原稿(原稿とともに図版ファイルや追加スタイルファイルなど組版に必要なファイルのすべてをアーカイブしたzipファイル)の両方を提出していただくことが必要です。前述の

<sup>1</sup><http://w32tex.org/index-ja.html>

<sup>2</sup><http://www.math.sci.hokudai.ac.jp/abenori/soft/abtexinst.html>

推奨環境以外の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X2<sub>ε</sub> 環境をご使用を希望される場合、ならびに、角藤版 W32TeX で組版できるかどうか明確でない場合、スタイルファイルに不具合がある場合には、

issj-office@issj.net

までご相談ください。

予稿論文原稿は、組版した PDF 原稿と TeX 原稿の両方を、御提出いただきます。

具体的な方法は、大会 WWW ページ

<http://www.issj.net/conf/>

に掲示いたしますので、よろしくお願いいたします。

## 5. 本文の書き方

本文は原則として 1 段組（目安は 1 行あたり 46 字）でお書きください。タイトルから本文までを含め、全体で 2 頁から 4 頁までとします。ただしロングについては、2 頁から 6 頁とします。

### 5.1. フォントについて

予稿集に用いるフォントは原則としてこのスタイルに従ってください。

フォントの種類：このスタイルでは、和文は見出しのみゴシック（太字）、その他は明朝体、英文は基本的に L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で標準的な Computer Modern となっています。

フォントの大きさ：

タイトル	16 ポイント
著者名	11 ポイント
要旨	10 ポイント
本文	11 ポイント

### 5.2. 図表について

図表の番号は、次頁の例を参考に図 1、表 1 などとしてください。図はカラーでも結構です。原則として、図キャプションは図の下、表キャプションは表の上に表示してください。

図表の作成例：



図 1: 図の例

表 1: 本テンプレートにおけるフォントのサイズ

Part	Font size (point)
Title (Japanese)	16
Title (English)	14.4
Author	11
Abstract	10
Body	11

### 5.3. 数式について

数式は原則として、 $\text{\LaTeX}$  の機能を使って組版してください。次にサンプルを示します。

$$p(\lambda|y) = \frac{p(y|\lambda)p(\lambda)}{p(y)} \quad (1)$$

数式にはこの例のように右隅に参照用の番号をつけてください。

### 5.4. 参考文献について

参考文献は本文中で引用された順に採番し、角カッコ付きで [1], [2], [3] などと表示してください。

雑誌は、本テンプレートの例の [1], [2] に従ってください。

著書は、本テンプレートの例の [3], [4] に従って、和・英文ともに、

著書名, 書名, 発行所名, 発行年（西暦）[, 頁]

の順に記載してください。

## 6. まとめ

以上、本テンプレートにしたがって原稿作成をお願いいたします。不明な点については、

issj-office@issj.net

まで、お問い合わせください。

## 参考文献

- [1] 斎藤一, 大内東, “組織評価における能力成熟度モデルの適用 – 観光関係部局の調査結果について,” 情報処理学会論文誌, Vol.45 No.3, 2004, pp.809-812.
- [2] Harker, P.T. and Vargas, L.G., “The Theory of Ratio Scale Estimation: Saaty ’ s Analytic Hierarchy Process,” Management Science, Vol.33, 1987, pp.1383-1403.
- [3] 野中郁次郎, 竹内弘高, “知識創造企業,” 東洋経済新報社, 1996.
- [4] Kleinrock L., “Queuing Systems,” Volume 1, 2, John Wiley & Sons, Inc., 1975, 1976.